

10月報(2020年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail :fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

10月は「ロザリオの月」



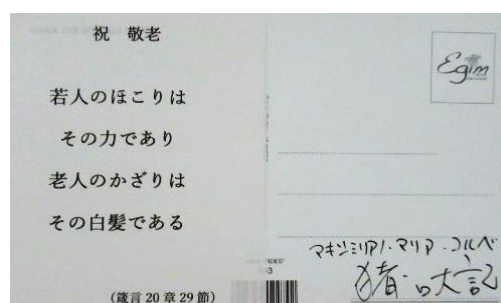
「ロザリオ」という名称は、ラテン語の *rosarium* に由来するもので、これは「バラの冠」という意味であり、一般的な説では、珠を繰り返しながら唱える祈りがバラの花輪を編むような形になるからと言われている。「ロザリオ」は修道会であるドミニコ会が中世以降に普及させたと言われています。一定の形式で祈りを連続して唱える修道会の習慣が、ロザリオという用具を通じ、世界中のキリスト信者に広まりました。ローマ教皇レオ13世(1878~1903)は、10月を「ロザリオの月」と決めました。共に祈り合いましょう！！

言葉を口に出すことにも、考えることさえにも耐えられないときがある。病気のとき、疲れ果てたとき、あるいは強烈な怒りや悲しみに、心の底が揺り動かされるときなどである。そんなときでも、ただロザリオを手のなかに持ち、そしてそのロザリオに祈ってもらうのだ。沈黙のままでロザリオを手のなかで繰る。それが聖母に助けを求める叫びとなるのだ。もはやすべてが行き詰まったとき、それが天と地の架け橋となる。

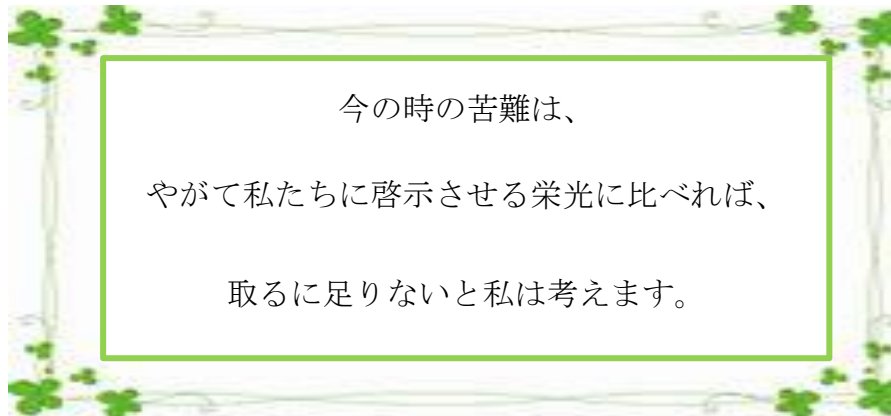
(トラピスト会士 B・ペニントンの祈り3節)

敬老の日おめでとうございます

皆様のご長寿を心からお祝いし、末永いご健康を願い、そして、教会の発展に一方ならぬご尽力をくださった皆様のご功労ならびにご功績に、改めて感謝申し上げます。通常であればお食事、催しを準備し敬老会という形で感謝の気持ちをお伝えするのが常ですが、昨今コロナ・ウイルスの蔓延に対する感染予防のためこのお手紙とご絵の送付という形に変えさせていただきます。



《ローマ人への手紙 8 章 18 節》



今は忍耐の時です。皆様方におかれましては充分健康に留意されお元気でいてくださればと思っております。早くコロナ・ウイルスの蔓延が終息しますようにと皆様と心をついにしお祈りできれば幸いです。

カトリック福山教会

信仰を生きる

檀上 小百合

『 He lives in 』

ここの所ミサに与っていないなあと思ってる日々、この原稿の依頼があったので、教会へのお手伝いということもあるけれど、自分自身のことを振り返るチャンスとして、ありがたくいただきました。大学卒業して、この〇十年、今の仕事をずっと継続していますが、何年やっても、これでOKなんてことはなくて、いつも嵐の海にいるような、もがいている、と言ったら言い過ぎ？大袈裟かも（笑）気が付いたら、「あれれー もうこんな年齢 Wow!」20代の頃は、定年までの年数を数えたら果てしなく遠いという感覚にため息も出てたのに。

私の仕事は、知っている方も多いかと思いますが、公立中学校の教諭。専門教科は英語。（なんだかカミングアウト感が・・・）この仕事内容は、大きく言って、授業と生徒指導ですけど、細かく言ったら、校務分掌、保護者対応、諸会議、成績処理、校内美化に諸々の雑務（書類作成、出張等）。もっと細かく言うとまだありますが……。これらを日々取り組む中で、やっぱり授業は中心に置いとかなきゃいけないなと思っています。

いろんな出会いがありました。いろんな環境の中で生きている生徒たちとの出会いがありました。時に、生徒に助けられたり、時に生徒にずたずたに心を傷つけられたり。おかげで、メンタル鍛えられました（笑）。そんな生徒たちとの関わりの中で、特に、大いに私を苦しめる生徒（こんな言い方ごめんなさい。でもそうなんです。正直言って）との関わりで、いつも私の頭の中に浮かぶ言葉があるんです。それは・・・・・・こんなエピソードを思い出しつつ・・・書いてみます。

20代の駆け出しの頃、ある時、シスター森永と雑談している時、私に、「シスター青木の授業を見るのもいいよ」というアドバイスがあり、私は素直にアドバイスを受け入れ、シスター青木に授業を見せていただくアポを取りました。(シスター青木は、このことをもうお忘れでしょうけど。)英語の授業をどう作り上げていくか、もちろん職場の同僚の先生たちとも日々相談にのってもらっていましたが、母校の暁の星の授業も頭にめぐったりで、当時の私は、母校の授業を見ることができることがうれしく思い、シスターの授業を見せてもらったと思います。

シスターの授業は、テンポよく進めておられ、良い緊張感もあり、当時の私にフレッシュな感覚をいただきました。その授業で取り上げられていた文法教材が、“Where is he ?” 「彼はどこにいますか？」 where の文は、中1で習う文ですが、公立でこの文法を導入する時は、よく使われる文は、いろいろありますが、例えば Where is my book ? It is on the desk. Where is my ball ? It's in your bag. Where is my cap ? It's on your head!!! などなど。でも、シスターのやり方は違ってたんです。言ってみれば、暁の星ならではの内容。シスターは、生徒さんに、

“Where is Jesus ?” という文で、やり取りをすすめておられました。

生徒さんは、自分なりに考えて、それぞれ答えていました。“He is in my heart.” は、多かったかなと思います。が、私が、衝撃的に胸を突かれたのは、“He is in my friend.” “He lives in my friend.” 「ええっ？ 彼は私の友達の中にいる、ですって？ ええっ？ 何この感覚！ 神様はどこに？ 神様は・・・」「そうかあ そうだよね・・・ 神様は私の中にもいてくださるけど、神様はどんな時にも、どんな所でも、私に関わるすべてに、いつも優しい眼差しでいてくださっているんだよなあ」「遠い所じゃなく、いつも身近な所で支えてくださっているんだ。」「私だけじゃなく、となりにいる人にも、またそのとなりにいる人にも、いつも神様は大きな愛で見守り続けてくださっているんだ。」と、改めて神様との関わりを私にガツンと思わせてくれた衝撃的な1シーンでした。

当時、“He is in my friend.” “He lives in my friend.” と答えた生徒さんの感性に感心しつつ、暁の星で学ぶことの意味とか使命とか、そんなことを深く考えたことを胸に、今日この頃なんです。

私が日々の生徒たちとのやり取りで、難しさや無力感、時には腹立たしさや、もう立ち上がれないと感じる時に、私の頭の中に浮かぶ言葉、つまり、“He is in my friend.”

“He lives in my friend.” という言葉が、頭をよぎるのです。「He lives in my student!!!!」 「〇〇君の中にも、神様は大きな愛で関わってくださっているんだ。」と、半

ば自分を奮い立たせるような感覚で頭によみがえってきます。「神様は、この生徒を通して私に何かメッセージを贈ってくださっている。何か意味ある出来事として。」この感覚がなかったら、今日まで私は今の仕事を続けることができなかつたかもしれません。この言葉で、私は、何度も神様と出会い、「まわりにいる人の存在が、私を生きさせてくれているんだよなあ」という思いに至るんです。（というか、言い聞かせているかもしれません）これが「信仰を生きる」ということになっているかどうかは、これからも私の中での神様との宿題かもしれませんがね。（笑）この宿題と共に、これからも自分の人生を歩む、こう言い切ると、もう逃げられませんよ、神様から（笑）。

この文章を書くにあたって、個人的なシスター方のお名前をお出ししてすみません！長きにわたって、私に付き合ってくださいっているということでお許しあれ。

南相馬便り ①92020年9月 援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

こちらはコロナも何とか落ち着いていますが、各地で第2波と思われる様相で、カリタスの活動もボランティア受け入れも中断のままです。

毎年7月の最後の土、日、月は相馬地方の最大行事の「相馬野馬追」があるのですが、今年



^{そうまのまおい}は相馬地方の最大行事の「相馬野馬追」があるのですが、今年
はコロナの関係で無観客の神事のみ行われました。私は昨年ちょうどこの行事の時、会議で福
山に帰っていて参加できなかったのが、今年を楽しみにしていました。この野馬追の行事は平
将門が騎馬の軍事訓練として行ったのが始まりと伝えられ、千年以上の歴史を持っていて、国
の無形文化財の指定もあります。それで最後の日（月）
の御神馬の奉納の時、一目でも騎馬武者を見たいと、
ダメもとで小高神社に行きましたが、ガードマンさん
が「今日は騎馬武者は来ないよ、神殿で神事だけだよ」
との事ですごく帰って来ました。でも、門前払いは
覚悟していたので、2,3日前に大富（修道院から車
で10分くらい）の厩舎に行って大好きなお馬さん
には会ってきました。

話変わります。8月6日、はからずも広島被爆75周年の日に、私は東電の福島第一原子力発電所（以下1F）原発事故の現場（今は廃炉現場）に行くことができました。前日に吉川さんから模型を使って1Fの概要について説明を聞きました。吉川氏は14年間東電の社員で、1Fの燃料関係の管理に携わり、原発事故後2012年に東電を退職し、1Fの廃炉について多く



の人に、事故と被災の現実と廃炉への歩み・未来の環境づくり等を広く世の人々に知らせ、共に考えるための働きをしておられます。詳しくは一般社団法人 AFW のホームページをご覧ください。吉川氏の説明を聞いた上で、翌日、事故現場・廃炉現場の見学をしました。まず驚くのはその広大な敷地です。東京ドームが 2000 個入ると言われてもピンときません。

ゲートで厳重な個人チェックを受け、持ち物は全部バスの中に残し、身一つで専用のバスに乗り換えて案内されます。いろいろなものが放射線を浴びないためと、テロ、盗難（何しろ核兵器の素があるのですから）、カメラの持ち込みもダメ、入場許可証と線量計を首から下げ、チョッキを着せられ、手袋をはめて長袖とズボン（以前は防護服でしたが今は軽装です）。

被災から現状、そして未来については吉川氏のホームページに譲って、私はこの日に感じたことを伝えます。



テレビで見たあの瓦礫の散々な姿はなく、バスが敷地の端から端まで案内して回れるようにきれいに片づけられていました。どれほどの労力だったことでしょう！働いて下った方々の汗と危険な中、体を張って片付けてくださったご苦労に頭が下がります。そして廃炉の過程で出る汚染水の巨大なタンクの数とその大きさに圧倒されました。毎日 3000 人から 4000 人が働いておられ作業をする人の防護服は頭のとっぺんから足

の先まで毎日使い捨てです。その防護服を焼却減容化したごみの鉄製の箱詰めの山にも驚きました。放射線の強いそれらのごみが敷地の大半を占めているのが心苦しいばかりです。元の景色は日本有数の景観を誇っていたところなのに。放射線に汚染された廃棄物は現代の高度な技術をしてでも扱い切れえないどうしようもない物なのです。この原発事故の恐ろしさを実感しました。今は、人体に害の無いよう相当な配慮がされていますが、事故当時はまだ、素手で火をつかむような状態だったことを思うと鳥肌が立ちます。そして、水素爆発を起こした原子炉建屋の無残な姿を目の前にした時、その思いは最高潮に達しました。続きは次号に…

もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

屋上防水改修工事が進行中



10月・11月の行事予定

10 月		11 月	
10 (土)	備後協働体合同幹事会	1 (日)	諸聖人
11 (日)	広島地区宣教司牧評議会	2 (月)	死者の日
16 (金)	教区召命合同祈りの集い中止	3 (火)	満葉杯中止
18 (日)	世界宣教の日	15 (日)	七五三の祝い
24・25 (日)	備後協働体研修会 (中止)	29 (日)	大掃除

【投稿依頼】 皆さま、ご承知の通り福山教会に2018年3月から月報が出されるようになりました。これは、従来の週報では伝えきれない教会の大切なことをお知らせしようとするものです。併せて、これは、私たち信者の交流を図るものですから、広く皆さまの信仰体験、行事の感想、思い等を募集しています。お待ちしております。書くこと、読むことにより私たちの信仰を広げ、深めましょう 月報作成委員会